

居住・通勤について

増田 耕一（地球物理学教室）

世俗的な話だが、教職員の通勤および住宅の問題は、理学部の将来構想を立てる上でぜひ考慮に入れるべきことだと思う。

東京都心部の職場の例にもれず、東大でも通勤・通学に片道1時間は普通、2時間も珍しくない。高い家賃を払って通勤時間を買うことはできないが、狭い上に住環境に恵まれない所が多い。たとえば道路に面していて夜も騒音が絶えない所だったりする。東京が大きな富を動かす情報センターとなって、地価の値上がり避けられないと

すれば、教職員の職住近接は今後ますますむずかしくなるに違いない。

もし理学部が柏に移転するならば、現住所から通えなくなる人もあることも考慮して、希望者全員が入居できる職員住宅を確保してほしいと思う。教育・研究のための活力を維持するための正当な要求だと思う。もし大学が住宅を建てるのが行政上困難になってきているならば、他の機関に建ててもらって借りるといった方法はとれないだろうか。

ただし移転の場合には家庭の事情などでどうしても移れない人も出てくるだろう。そういう人（教官以外の職員）に代わりの職が見つけれられるのか、またその人が転職したあとの定員は補充されるのか、ということも解決が必要な問題である。

本郷に残るという案も、他の専門の人といつでも会えるという総合大学のよさがあり、捨てがたい。そう決断するならば、今後数十年にわたって、

本郷の東大が通勤・通学に不便な大学であり続けないために、やはり何らかの住宅関係の対策が必要だと思う。

なお少し違った問題だが、他機関に属する人が滞在して教育・研究や研修に参加しようとすると、特に東京では安い宿舎がないことが障害となる。これもあわせて解決できないものかと思う。